

## 海外における動物の飼養管理と譲渡促進のための工夫について

日本獣医生命科学大学獣医学部獣医学科 助教

田中亜紀さん

### 米国の動物シェルター紹介

米国カリフォルニア州の動物シェルター（飼い主のいない動物の一時保護等を行う施設）は、大きく分けて行政シェルター（郡営シェルターと市営シェルター）と民間シェルターがあります。行政シェルターは狂犬病予防法を基にした公衆衛生業務を中心に、動物の引取りを含めた地域の動物問題に取り組んでおり、飼い主のいない動物対策から様々な動物虐待事例への対応、各種登録など扱う業務は多岐にわたります。一方で民間シェルターは、「致死処置を行わない」としていることが多く、譲渡に適した動物を選択的に収容している場合がほとんどですが、動物介在活動や地域猫活動なども積極的に取り入れています。行政シェルターと民間シェルターは役割分担を行い、両者ともたくさんのボランティアが関わって地域の動物の福祉の向上や市民の安全を目標としています。

1970年代は米国でも行政シェルターでの犬や猫の致死率が約9割でした。2000年に入った頃から、シェルターの方針が「殺す場所」から「生かす場所」へ変化し、その結果、致死率は顕著に減少し、今では行政シェルターでも2~3割程度と非常に少なくなってきています。それと同時に、シェルターのイメージがたくさんの市民の訪れる開かれた施設として明るい方向へ変化を遂げているところも多くなってきました。

東京都でも、動物の引取数の減少や譲渡の拡大に向けた取組を進めた結果、動物愛護相談センターに収容された動物の致死率は減少しています。動物愛護相談センターに収容される動物の頭数は少なくなっていますが、動物を新しい飼い主へとつなぐ施設にさらに発展していくためには、海外の施設の譲渡推進に向けた取組も一つの参考になると思います。

そこで、週末に家族が遊びに行く場所へと変わってきたカリフォルニア州のサクラメント郡行政シェルターの取組をご紹介します。

〈シェルターを楽しい場所に〉

- ① 譲渡対象動物を可愛く見せる工夫：譲渡対象の動物の写真をできる限り可愛く撮る技術をプロのカメラマンから伝授。
- ② 譲渡部屋やケージを可愛く工夫：お部屋やケージにテーマを設けて、可愛くデコレーション。市民からの様々な寄付も受け入れる。お姫様風や野球チームをテーマに。
- ③ 猫カフェ風ふれあい部屋：猫カフェをモチーフにしたふれあい部屋を作り、正しい猫との接し方や収容環境の啓発の場に。
- ④ ドッグランを市民に開放：収容動物だけでなく、市民の憩いの場になるようにドッグランを開放。犬の飼い方教室も開催。

- ⑤ シェルターの施設名を変える：行政区分での名称は「Animal Care and Regulation」ですが、施設名は「Animal Adoption Center 動物譲渡センター」として明るいイメージ作り。
- ⑥ 土日に開館し家族の来訪を促進：月曜日を休館日。
- ⑦ 譲渡のチャンスを向上：譲渡適性の高い動物は収容期間中でも譲渡対象に入れ、期間満了後速やかに譲渡するなど、優先的に譲渡して、譲渡を促進し、動物の回転を速くする。

サクラメント郡行政シェルターは北カリフォルニア最大のシェルターですが、獣医科大学との連携も多く、シェルターメディスンの研究を通してシェルター内の動物福祉向上も図っています。米国でも No-kill の流れが強くなる一方で、その弊害として動物福祉がないがしろにされたり、公衆衛生上の問題が発生したりする看過できない状況もあります。

日本の行政シェルターにおいても、大学等と連携しながら動物福祉の向上を図ったり、海外の行政シェルターの取組を参考にしたりしながら、動物の譲渡を推進していくとともに、人と動物と地域の安全の向上を目指していくことが大切です。

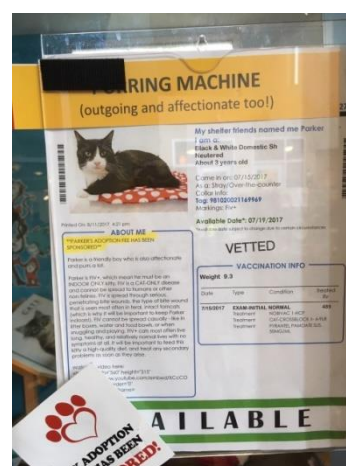
#### <サクラメント郡行政シェルター>



①



②



③



④

- ①、② 猫のふれあいルームの様子
- ③ 譲渡対象の猫の紹介
- ④ ふれあう際のルールを表示

※「保護・収容動物の適正な取扱い・譲渡の促進に向けたガイドブック  
～殺処分ゼロのための道しるべ～（令和2年3月 東京都福祉保健局）」より